



じゃがいもずきん
「ききぼう」くん

防災ワンポイント 第51回

Doはぐ(避難所運営ゲーム)を体験してみませんか？

『Doはぐ』(避難所運営ゲーム)とは、避難者の年齢、性別、国籍やそれぞれが抱える事情が書かれたカードを、避難所に見立てた地図にどれだけ適切に配置できるか、また避難所で起こる様々な出来事にどう対応するかを模擬体験するゲームです。北海道版では、真冬の北海道で大地震が発生したという想定に基づき、極めて過酷な条件下での避難所運営を疑似体験します。

中標津町では、Doはぐが作成された平成28年から、Doはぐの啓発・体験活動を行っており、これまでに町内・町外の9団体の方々にご体験いただいています。



白樺町内会 (H28.11)



全町連女性部 (H29.2)



計根別学園 (4、5年生) (H29.7)

●なぜ『Doはぐ』の体験が必要なの？

大災害発生直後の避難所の運営は、地域住民が協力して行う『共助』の最たるものの1つです。避難所を円滑に運営するためには、その時その場にいる方が、時刻や天気、ライフラインの状況、周辺の被害状況などの条件を理解し、即断即決かつ臨機応変な対応をすることが求められます。

Doはぐではこのような避難所の状況を図上で体験することができるため、いざというときに対応する力を自然に養うことができます。



Doはぐ体験を希望される方や団体は、総務課防災係までご連絡ください。

「宝くじの助成金」で防災備品等を整備しました

緑町町内会防災会ではこのほど、宝くじの社会貢献広報事業である、コミュニティ助成事業を活用して防災用備品等を整備しました。この事業は宝くじの受託事業収入を財源としており、地域社会の健全な発展と住民福祉の向上に大きく寄与する「宝くじの助成金」は、明るく住み良いまちづくりのために活用されています。

緑町町内会では、平成25年度に自主防災組織をつくり、防災訓練を実施するなど防災活動に積極的に取り組んでいます。

この助成金を活用して町内会の防災備品等を整備する場合、町が認める自主防災組織であることが要件の一つです。助成金額は30万円から200万円までです。



整備された備品

整備備品

- ◆ テント(3張)
- ◆ テント用ウエイト(18個)
- ◆ 発電機(1機)
- ◆ かまどセット(2機)
- ◆ クーラーボックス(5個)
- ◆ 給水タンク(6個)
- ◆ 投光器セット(2台)
- ◆ ホワイトボード(1台)
- ◆ メガホン(1個)
- ◆ ガソリン携行缶(2缶)
- ◆ ポリタンク(6個)



詳しくは、総務課 防災係まで。